Operation Guide 3141

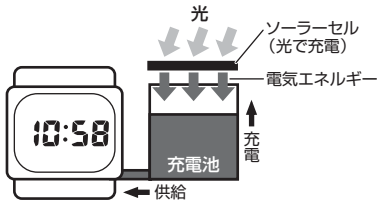
CASIO

十分に光を当ててご使用ください

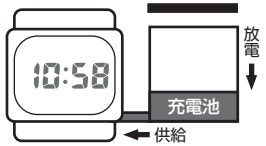
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



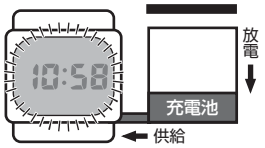
〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●ライト（表示用照明）をたくさん使うと

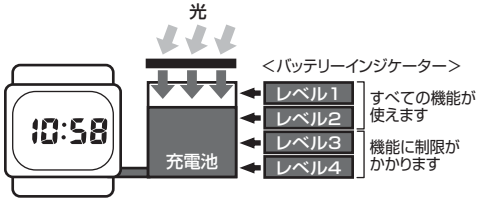
ライトを多用すると充電池の容量は早く減ります。



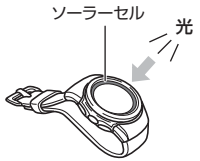
オートライト機能を使うと、頻繁にライトが点灯する状態になりますのでご注意ください。

●時計に光が当たるようにしましょう

- 電池容量を示すバッテリーインジケーターがレベル３になると機能に制限がかかりますので、レベル１、レベル２を保つように光を当ててください。

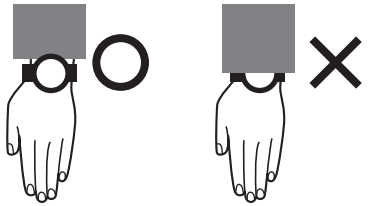


- 腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

- 腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

本機の使用例 ＜登山に使用するとき＞

本機は内蔵されたセンサーにより、高度・気圧・温度をそれぞれ計測しますので、登山やハイキングなどに使用すると便利です。

Ⅰ．登山前

気圧の変化から今後のお天気の傾向がわかります。
➔「気圧・温度計測」参照



＜気圧・温度計測モード＞

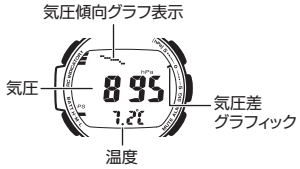
Ⅱ．登山を始めてから

●高度を見て、どのくらい登ったかがわかります。
また、高度と日時がメモリーできます。
➔「高度計測」参照



＜高度計測モード＞

●登山中の気圧や気温を計測することができます。
➔「気圧・温度計測」参照



＜気圧・温度計測モード＞

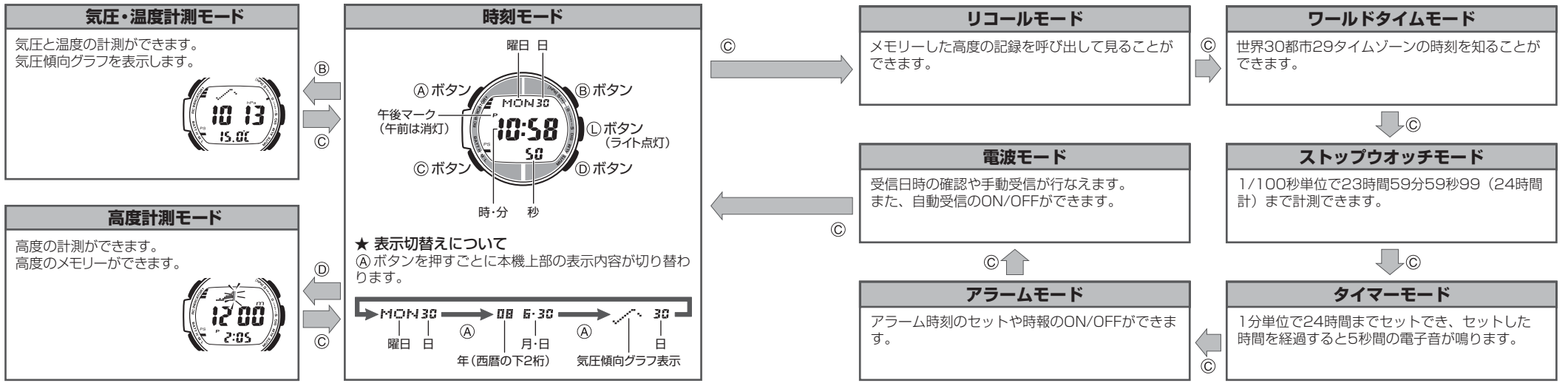
Ⅲ．登山後、家に戻ってから

登山中にメモリーした高度を見直し、次回の登山計画などを立てることができます。
➔「メモリーしたデータを見る」参照

操作のしくみと表示の見方

●Ⓑ・Ⓓボタンを押すと各計測モードに切り替わり、自動的に計測が開始されます（Ⓒボタンを押すと時刻モードに戻ります）。
●高度計測モードで、計測間隔を２分に設定しているときは９～10時間、計測間隔を５秒に設定しているときは59～60分間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。

●Ⓒボタンを押すごとに確認音が鳴り、リコールモード、ワールドタイムモード、ストップウオッチモード、タイマーモード、アラームモード、電波モードに切り替わります。
●リコールモード、アラームモード、電波モード、気圧・温度計測モードで２～３分間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。



パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
  ※ 気圧·温度計測モード、高度計測モード、タイマーモード、ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。
  ➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム·時報の報音、タイマーのタイムアップ報音は行ないます。



- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
  ➡パワーセービングマークが点滅から点灯にかわります。
  アラーム·時報の報音、タイマーのタイムアップ報音は行ないません。
  2時間毎の気圧計測も行ないません。
  自動受信も行ないません。
  ※ 時計機能は、内部では正常に作動しています。

●スリープ状態を解除するには

- 本機を明るいところに置く
- 本機のいずれかのボタンを押す
- 本機をオートライト機能が動作する角度まで傾ける（「ライトを点灯させる」）

※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のON／OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「セットのしかた」をご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル5)、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ELバックライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- タイマーのタイムアップ報音
- センサー計測



リカバーマーク

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。

●バッテリーインジケーターの見方

レベル1		すべての機能が使用可能
レベル2		すべての機能が使用可能
レベル3	 ※LOW表示、Lマークが点滅	EL点灯不可、アラームなどの報音不可、センサー計測不可、電波受信不可
レベル4	 ※C(Charge)マークが点滅	液晶表示不可、EL点灯不可、アラームなどの報音不可、センサー計測不可、電波受信不可
レベル5		時計機能停止(時計発振不可)

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル5になっても再度充電を行なうことで使用できます。
※レベル5から充電したときは、レベル4になると表示が点灯し、C(Charge)マークが点滅します。ただし、この状態では機能が使用できませんので、レベル2またはレベル1になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電必要サイン

レベル3、レベル4の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。
また、頻繁にリカバーマークが点滅する場合も電池残量が少なくなっていますので光を当てて充電してください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

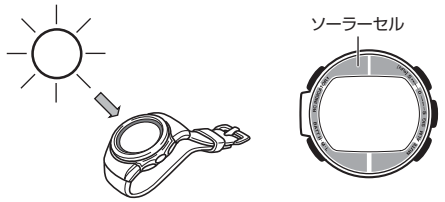
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作*に加え、下記の使用例で使用した場合に約6ヵ月動き続けます。

使用例
- ライト:1.5秒間／日
- アラーム報音:10秒間／日
- 気圧傾向グラフ表示:2時間毎計測
- 高度計測:1時間(5秒計測時)／月
- 電波受信:6分／日
- 表示点灯:18時間／日

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合

環境(照度)	充電時間
晴れた日の屋外など(50,000ルクス)	約5分
晴れた日の窓際など(10,000ルクス)	約24分
曇り日の窓際など(5,000ルクス)	約48分
蛍光灯下の室内など(500ルクス)	約8時間

●各レベルに回復するための充電時間

環境(照度)	充電時間 レベル5➡レベル4	レベル4➡レベル3	レベル3➡レベル2	レベル2➡レベル1
晴れた日の屋外など(50,000ルクス)	約1時間		約14時間	約4時間
晴れた日の窓際など(10,000ルクス)	約4時間		約67時間	約19時間
曇り日の窓際など(5,000ルクス)	約6時間		約135時間	約37時間
蛍光灯下の室内など(500ルクス)	約60時間		–––	–––

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

●センサー計測中の電圧降下について

気圧・温度、高度の各計測モードにおいて、電池容量のレベルが2以上であるにもかかわらず、電池電圧がセンサー駆動電圧に満たない場合(リカバーマーク点滅)は、センサー計測が行なわれず、下記状態となります。

	モード切替え直後	計測途中で電池電圧が降下した場合
気圧・温度	空白表示	–––
高度	空白表示	–––

※ただし電池電圧が復帰すれば通常通り使用できます。

表示照明用 EL バックライトについて

本機の表示部には EL パネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、暗い場所で時計を傾けると自動的にライトが点灯するオートライト機能もあります。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ ボタンを押して点灯させる
～手動点灯～

どのモードのときでも、

Ⓛ ボタンを押します

➡Ⓛ ボタンを押すとライトが点灯します。



※オートライト OFF のときも Ⓛ ボタンを押すと点灯します。

■時計を傾けて点灯させる
～オートライト機能～

どのモードのときでも、時計を傾けるだけでライトが約 1.5 秒間点灯します。
※明るいときは、自動点灯しません。

準備：時刻モード（セット中以外）で、Ⓛ ボタンを約３秒間押し続けて、オートライト ON（*A.EL* 点灯）にします。



※オートライト ON のとき、Ⓛ ボタンを約３秒間押し続けるとオートライト OFF（*A.EL* 消灯）に戻ります。

●ライトを点灯させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を± 15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると表示しにくくなります。



〈ライト点灯についてのご注意〉

- 直射日光下では点灯が見えにくくなります。
- 点灯中にアラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。
- 点灯中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これは EL パネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。
- ライトは、電波受信中およびセンサー計測モードのセット状態では点灯しません。

〈オートライトご使用時の注意〉

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、ライトの点灯が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- ライト点灯後、時計を傾けたままにしておいても、点灯は約1.5秒間のみとなります。
- バッテリーインジケーターがレベル4になると、自動的にオートライト OFF になります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても点灯することがあります。**オートライトを使用しないときは必ず OFF** にしておいてください。

※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトを OFF にしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、点灯しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも点灯しにくいときは、腕を下からふりあげてみると点灯しやすくなります。

操作音について

モード切替え時などに鳴る操作音のON／OFFを切り替えることができます。

●操作音の ON/OFF 設定

セット中（表示点滅）および電波受信中以外、どのモードのときでも Ⓒ ボタンを約３秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、操作音のON／OFFが切り替わります。

※操作音を OFF にしているときは、MUTEマークが点灯します。

※操作音がOFFでも、アラーム音、時報音、タイマーのタイムアップ音、手動受信終了音は鳴ります。

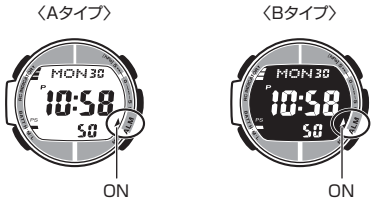
※この操作を行なうと、モードが切り替わってしまいます。操作終了後に、Ⓒ ボタンを押して使用するモードに切り替えてください。



液晶表示について

製品によって、液晶表示のタイプが異なります。
なお、記載しているイラストは、視認性を考慮して「白地に黒」で描写しております。ご使用になる製品によっては、記載しているイラストの黒い部分（「時刻」、「機能がONになっているときに点灯するインジケーターやマーク」など）が、「白または他の色で表示される」と置き換えてご覧ください。

※液晶表示のタイプは製品によって決まっているため、1つの製品でタイプを切り替えることはできません。



電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

●日本の標準電波(JJY)は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所(40kHz)」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所(60kHz)」から送信されています。

●アメリカの標準電波(WWVB)はNational Institute of Standards and Technology(NIST)が運用しており、コロラド州にあるフォートコリンズから送信されています。

●イギリスの標準電波(MSF)はNational Physical Laboratory(NPL)が運用しており、イングランド北部のアンソーンから送信されています。

●ドイツの標準電波(DCF77)はPhysikalisch-Technische Bundesanstalt(PTB)が運用しており、フランクフルト南東に位置するマインフリンゲンから送信されています。

※標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

日本の正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループが運用しております。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

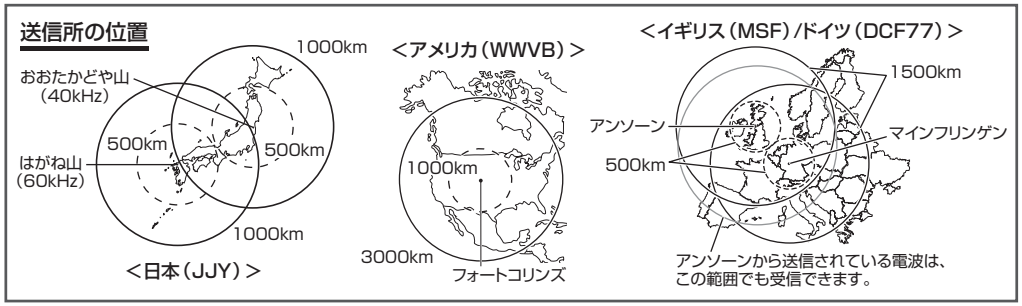
■ 電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記の都市に設定すると、その都市に対応した標準電波を受信します。

* ホームタイム都市の設定については「セットのしかた」参照。都市コードについては「都市コード一覧」参照。

ホームタイム都市(受信機能対応都市)	受信電波
TYO、SEL、HKG	日本の標準電波(JJY)
HNL、ANC、LAX、DEN、CHI、NYC	アメリカの標準電波(WWVB)
LON、PAR、BER、ATH	イギリスの標準電波(MSF)、ドイツの標準電波(DCF77)

※HKG、HNL、ANCの各都市は、受信機能対応都市としています。条件が良ければ受信する場合もあります。



●受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。
※受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯(昼・夜)、各種ノイズ

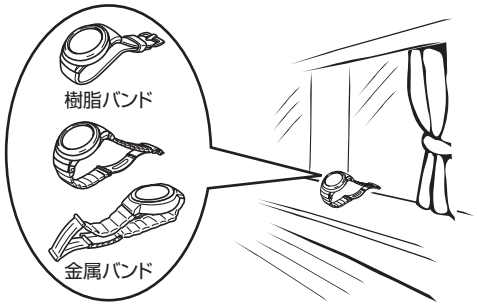
■ 受信時間について

受信時間はおよそ2～7分です。

※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大14分かかる場合があります。

■ 電波受信を行なうときの場所について

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部(12時位置のアンテナ)を外に向けて窓際に置いてください。

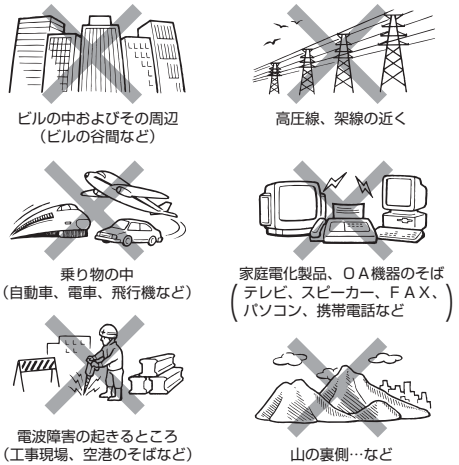


●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●ご注意

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

●自動受信：1日最大6回
●手動受信：必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます

■ 自動受信

- 下記の表中の各都市を、ホームタイム都市に設定(「セットのしかた」参照)しているときは、自動受信を行ないます。ただし、HKG、HNL、ANCの各都市の自動受信の設定は、工場出荷時にはOFFになっています。
  *自動受信ON／OFFの設定については「自動受信ON／OFFの設定」を参照。
- 時刻モードの時刻(「操作のしくみと表示の見方」参照)が下記の表中の自動受信開始時刻になると、1日最大6回、自動的に受信を行ないます。
  ただし、1日1回受信が成功すれば、それ以降、その日の自動受信は行ないません。
  また、自動受信開始時刻は、設定したホームタイム都市やサマータイム設定によって異なります。

ホームタイム都市		自動受信開始時刻					
		1	2	3	4	5	6
TYO、SEL、HKG	通常時刻	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
HNL、ANC、LAX、DEN、CHI、NYC	通常時刻 サマータイム	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
LON	通常時刻	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時
	サマータイム	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
PAR、BER	通常時刻	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
	サマータイム	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
ATH	通常時刻	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
	サマータイム	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時

★自動受信を行なう前に
- 「操作のしくみと表示の見方」にしたがい、時刻モードまたはワールドタイムモードにします。
- 「自動受信」の表中の「自動受信開始時刻」前に、「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置きます。

★受信が成功すると
成功した時点で受信を終了し、時刻を修正して、自動受信を開始する前のモードの表示に戻ります。
※受信状態のレベル表示（「受信中の状況表示（レベル表示）について」参照）が、すべて点灯します。



★受信が失敗すると
時刻修正は行なわずに、自動受信を開始する前のモードの表示に戻ります。

■手動受信
- 必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます。受信に適した場所や環境（「電波受信を行なうときの場所について」参照）で行なってください。また、受信中は時計を動かさないでください。

★手動受信を行なう前に
- 「操作のしくみと表示の見方」にしたがい、電波モードにします。

★手動受信を行なう

Ⓓボタンを約2秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、受信を開始します。
※受信中は、受信状態のレベルを表示（「受信中の状況表示（レベル表示）について」参照）します。



★受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※手動受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

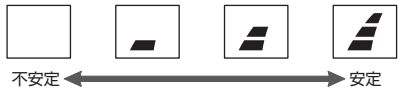
★受信が成功すると（GET 表示）
成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、確認音の報音とともに修正日時を表示します。
※修正日時表示後は、Ⓓ ボタンを押すか、1～2分間放置すると電波モードの表示に戻ります。
※受信状態のレベル表示（右記参照）が、すべて点灯します。



★受信が失敗すると（ERR 表示）
時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。
※“ERR”表示後は、Ⓓ ボタンを押すか、1～2分間放置すると電波モードの表示に戻ります。
※その日に一度でも受信に成功している場合は、受信状態のレベル表示（右記参照）が、すべて点灯したままになります。

■受信中の状況表示（レベル表示）について
受信中は受信状態によってレベル表示が変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

- ●受信状態のレベル表示は、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- ●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

■受信日時の確認

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい、電波モードにします



➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。
※一度も受信に成功しなかったときは、“- - : - -”を表示します。
※時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓒ ボタンを押します。
※2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードになります。

■自動受信 ON／OFF の設定
自動受信をOFFにすると、電波の自動受信をさせなくすることができます。
※ホームタイム都市を受信機能対応都市に設定している場合、自動受信ON／OFFの設定を行なうことができます。
* 受信機能対応都市については、「電波の受信範囲の目安」参照。

1. 受信日時を表示させる

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい、電波モードにします



➡受信日時を表示します。
※2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードになります。

2. セット状態にする

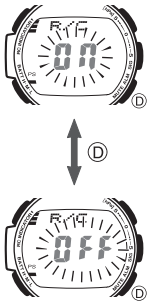
Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます



➡ON または OFF が点滅します。
※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

3. セットする

Ⓓ ボタンを押します



➡ON と OFF が切り替わります。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します



➡点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。

★自動受信を ON にすると…

●ホームタイム都市が TYO、SEL、HKG の場合
自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

●ホームタイム都市が HNL、ANC、LAX、DEN、CHI、NYC の場合
自動受信はONになり、アメリカのフォートコリンズからの電波を受信します。

●ホームタイム都市がLON、PAR、BER、ATHの場合
自動受信はONになり、イギリスのアンソーンとドイツのマインフリンゲンからの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。

●以下のときは、電波受信を行ないません。
・タイマー計測中のとき。
・バッテリーレベルがレベル3または4のとき。
・リカバー状態のとき。
・高度メモリー中（手動受信は可）。
・パワーセービング中（機能スリープ時）。

●自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●本機は日本、アメリカ、イギリス、ドイツで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行なわないときは、平均月差±15秒以内の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。

●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できないのですが？

●電波の送信が中断していませんか。
電波時計が利用している標準電波は、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

●電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。

●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください（「電波受信を行なうときの場所について」参照）。

●ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。
ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、電波受信を行ないません。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

●自動受信設定が OFF になっていませんか。
「自動受信 ON ／ OFF の設定」をご覧になり、自動受信設定を ON に設定してください。

●タイマーが計測中になっていませんか。
タイマー計測中は電波受信を行ないません。計測をストップするには、タイマーモードのときにⒹボタンを押します。

●自動受信を行なう時間帯（「自動受信」参照）に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんでしたか。
自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれるのですが？

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいるのですが？

●サマータイムの設定がONになっていませんか。「セットのしかた」をご覧になり、サマータイムの設定をOFFまたは AUTO にしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっているのですが？

●ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

5. 自動受信 ON ／ OFF の設定ができないのですが？

●ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、自動受信 ON ／ OFF の設定を行なうことができません。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

6. 自動受信は何時頃行なわれるのですか？

●自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます（「自動受信」参照）。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください（「電波受信を行なうときの場所について」参照）。

7. 手動受信のしかたは？

●電波モードのときにⒹボタン（右下）を約2秒間押し続けます。確認音が鳴り、手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の 12 時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

8. 受信日時の確認のしかたは？

●時刻モードのときにⒸボタン（左下）を6回押して、電波モードにします。
電波受信が成功して、時刻修正された日時が表示されます。時刻モードに戻すには、もう一度Ⓒボタンを1回押します。

★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時、電池交換後、レベル5からの充電時には、以下の内容でセットされています。

自動受信	0A	自動受信する
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	AT	電波受信による自動切替え

気圧・温度計測

■気圧・温度計測のしかた

時刻モード、高度計測モードのときに Ⓑ ボタンを押して気圧・温度計測モードに切り替えると、気圧と気圧傾向グラフ表示、気圧差グラフィック、温度を表示します。

●表示の見方



※ モード切替え直後は気圧表示に4～5秒かかる場合があります。

●気圧・温度計測について

気圧・温度計測モードに切り替えると、最長約３分間は約５秒ごとに計測します。
以後、Ⓑ ボタンを押すごとに再計測を行ないます。

※外気温を計測するときは、時計を腕からはずして、体温、汗（水滴）、直射日光などの影響を受けないようにしてください。

※実際の外気温と時計自体の温度が同じになるまでに、20～30分程度かかります。

＜気圧計測＞
計測範囲：260hPa～1,100hPa
計測単位：1hPa

※計測値が計測範囲を超えた場合は、“－－－－”表示となります。

＜温度計測＞
計測範囲：－10.0℃～60.0℃
計測単位：0.1℃

※計測値が計測範囲を超えた場合は、“－－－”表示となります。

●気圧傾向グラフ表示について

2時間おきに自動計測された気圧値をグラフで表示します。

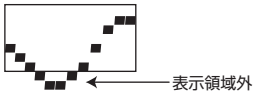
気圧・温度計測モードでボタン操作を行なわずに約２～３分間経過すると、自動的に時刻モードに戻ります。

■気圧傾向グラフ表示の見方

気圧傾向グラフ表示は2時間おきに自動計測された気圧を連続して過去24時間分（12回計測）をグラフ表示するものです。

※グラフは、1hPa単位で表示します（縦１ドットが1hPaを表わします）。

高度差の生じる移動および急激な天気、温度変化などによって気圧が大幅に変化すると、過去の気圧データがグラフ表示領域からはずれて見えなくなることがあります。なお、その後に計測された値が見えなくなった値に近いものになると、再び表示されます。



＜気圧傾向はこのように見ます＞
気圧傾向を見るときには、下記の表示例を参考にして気圧変化（お天気の傾向）の目安にしてください。
なお、測定場所の高度などの環境条件が変わると、気圧が変化して気圧傾向グラフ表示に影響を及ぼしますのでご注意ください。

➔ 上昇傾向にあるとき



気圧が上がり傾向（天気が良くなる）という目安になります。

➔ 下降傾向にあるとき



気圧が下り傾向（天気が悪くなる）という目安になります。

●温度・湿度の環境によって若干、気圧傾向グラフ表示が変わることがあります。あくまでも気圧傾向の目安として見てください。

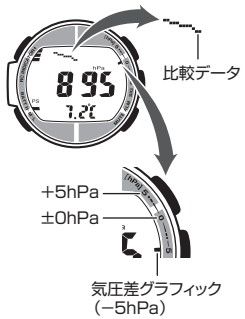
●気圧計測時にセンサーが故障しているとき、または二次電池が消耗しているときや機能スリープ中には計測は行なわれず、その時間帯の気圧傾向グラフは表示されません。

■気圧差グラフィックの見方

気圧差グラフィックは、気圧・温度計測モードで計測された値と、２時間おきに自動計測された最新の計測値との差をグラフィック表示しますので、最新の気圧傾向を確認することができます。

※気圧差グラフィックは1hPa単位で±5hPa範囲をグラフィック表示します。

例：気圧差が－5hPaの場合



●気圧差が±5hPaを超えた場合や気圧計測値が計測範囲（260～1100hPa）を越えた場合は、グラフィックは点灯しません。

■気圧調整のしかた

本機は、工場出荷時に大気圧に近い値を表示するように調整してありますので、**通常は気圧の調整を行なう必要はありません**。正確な気圧計があって、その気圧に対して本機の表示が大きくずれている場合にのみ以下の操作にしたがい気圧を調整してください。この気圧調整を誤って行なうと、気圧を正しく計測できなくなるのでご注意ください。

1. 気圧・温度計測モードのとき、

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます



➡ “OFF”（または温度）が点滅します。

※ なお、気圧が表示されるまで約４～５秒かかりますので操作せずにお待ちください。

※ 調整状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に調整状態が解除されます。

2. 気圧を点滅させるには、

Ⓒ ボタンを押します



➡ “OFF”（または気圧）が点滅します。

3. 気圧値のセットは、

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡ Ⓓ ボタンを押すごとに1hPaずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに1hPaずつ戻ります。

※ それぞれ押し続けると早送りします。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンを同時に押すと、“OFF”表示となり、工場出荷時に調整してある基準気圧に戻ります。

4. 気圧セット後、

Ⓐ ボタンを押します



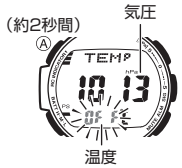
➡ 気圧・温度計測モードの表示に戻ります。

■温度調整のしかた

本機の温度計は、工場出荷時に調整してありますので、**通常は温度の調整を行なう必要はありません。**正確な温度計があって、その温度に対して本機の表示が大きくずれている場合にのみ以下の操作にしたがい温度を調整してください。この温度調整を誤って行なうと、温度を正しく計測できなくなるのでご注意ください。

1. 気圧・温度計測モードのとき、

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます



➡ “OFF”(または温度)が点滅します。

※ なお、気圧が表示されるまで約4～5秒かかりますので操作せずにお待ちください。

※ 調整状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に調整状態が解除されます。

2. 温度値のセットは、

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡ Ⓓ ボタンを押すごとに0.1℃ずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに0.1℃ずつ戻ります。

※ それぞれ押し続けると早送りします。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンを同時に押すと、“OFF”表示となり、工場出荷時に調整してある基準温度に戻ります。

3. 温度セット後、

Ⓐ ボタンを押します



➡ 気圧･温度計測モードの表示に戻ります。

■気圧ミニ知識

●気圧傾向グラフ表示の便利な使い方

その１
ハイキングや山登りなどで出発する前日の夜から朝までの気圧を測り、天気の傾向を知る目安にできます。

その２
気圧の傾向が表示されるので、夕立が起こりやすいかなどの天気の傾向を知る目安にできます。



●気圧の変化を読むことにより、天気の予想ができます。

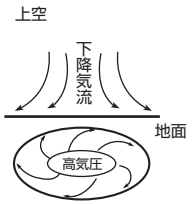
気圧は大気が動くにつれて変化しますので、気圧の変化を見れば天気が良くなるか、それとも悪くなるかをある程度予想できます。

＜気圧が高くなりつつあるとき＞ ➔ 天気は回復傾向

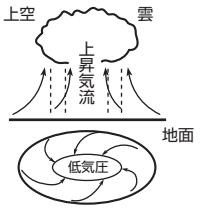
＜気圧が低くなりつつあるとき＞ ➔ 天気は下り坂傾向

その理由は･･･
高気圧あるいは低気圧が接近してくると右記のような天候の変化が生じるからです。

＜高気圧のとき＞
下降気流となるので雲は消え、天気が良くなる。



＜低気圧のとき＞
上昇気流となるので雲ができ、雨が降ってくる。



●大気圧について

テレビ、新聞などで発表される気圧値は、実際に山頂や平地や海上で計測した気圧値を海抜０mで測った値に計算していますので、山間部などは天気図上その場所の気圧値ではありません。
これは、気圧分布を見る（気圧を比較する）ためには一定の高さにおける気圧値として統一する必要があるからです。この一定の高さ（海抜０m）として修正することを海面更正といいます。

高度計測

＜現在地の高度を調べる（「高度計測のしかた」）＞

- 頂上や休憩地点などで高度計測を行なうと、その現在地の高度がわかります。



＜２点間の高度差を調べる（「高度差計測のしかた」）＞

- 基準地点から現在地点までの高度差を表示します。
  あらかじめ基準地点となる場所で0mにリセットしておくと、その基準地点から、どれだけ登ったのか（下ったのか）がわかります。
  ※ 標高差を調べる時などにも便利です。



本機の高度計測機能は、内蔵の圧力センサーで検出した変化量を国際民間航空機関（ICAO）が定めている国際標準大気（ISA）と照合し、高度に換算して表示するものです（相対高度計）。

＜ご注意＞

高度を計測する場合は、時計を素肌に直接つけるなどして、なるべく時計自体の温度を一定にし、温度変化の影響を受けないようにして行なってください。

※大気の温度変化および標高差による温度変化の影響を受けると多少の誤差がでることがあります。

●表示について

高度計測モードの表示は、４つのタイプから選ぶことができます。
高度差計測（「高度差計測のしかた」参照）を行なう場合は、あらかじめ高度差が表示される＜タイプ３＞または＜タイプ４＞を選んでください。表示タイプの設定方法は、「表示タイプの設定」をご覧ください。

〈タイプ1〉



〈タイプ2〉



〈タイプ3〉



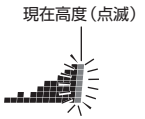
〈タイプ4〉



＜高度傾向グラフ表示＞

高度計測モードで計測した高度をグラフ表示します。

※グラフの単位は、「縦：10m」、「横：高度計測間隔（5秒または2分）」です。



●高度計測間隔について

高度計測モードに切り替えると、最初の約３分間は約５秒ごとに計測し、その後は「約２分おきに約９～10時間自動計測」または「約５秒おきに約１時間自動計測」します。「約２分おきに約９～10時間自動計測する」か、「約５秒おきに約１時間自動計測する」かの設定方法は、「高度計測間隔の設定」をご覧ください。

■高度計測のしかた

時刻モード、気圧・温度計測モードのときにⒹボタンを押して高度計測モードに切り替えると、そのときの高度を計測して表示します。

表示例：タイプ1



※モード切替え直後は高度表示に4～5秒かかる場合があります。

＜高度計測＞
表示範囲：－10,000m～10,000m
表示単位：5m
計測範囲：－700m～10,000m
計測単位：5m
※計測は表示範囲内の10,700m間で行ないます。
※本機の高度値は相対高度値ですので、基準高度の設定値により、実際は海面より高くてもマイナス表示されることがあります。
※計測値が計測範囲・表示範囲を越えた場合は、オーバー表示（－－－－）となります。

高度計測モードで、計測間隔を2分に設定しているときは9～10時間、計測間隔を5秒に設定しているときは59～60分間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。

■高度差計測のしかた

基準地点から現在地点までの高度差を表示します。
- 基準地点よりも高い場所に移動した場合：「＋」符号が付いた数値で表示
- 基準地点よりも低い場所に移動した場合：「－」符号が付いた数値で表示

＜高度計測＞
表示範囲：－3,000m～＋3,000m
※計測値が計測範囲・表示範囲を越えた場合は、オーバー表示（－－－－）となります。

1. 「表示タイプの設定」をご覧になり、「高度差が表示される表示タイプ（3または4）」を選びます。

〈タイプ3〉 〈タイプ4〉

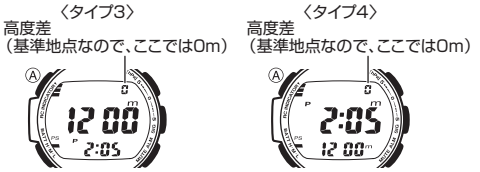


2. 高度差計測の基準とする地点（現在地など）で、

Ⓐ ボタンを押します

高度計測を行ない、上段に高度差を表示します。

〈タイプ3〉 〈タイプ4〉



■表示タイプの設定

1. 高度計測モードのとき、

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

（約2秒間）



➡"OFF"（または高度）が点滅します。
※なお、高度が表示されるまで、約4～5秒かかりますので操作せずにお待ちください。
※設定状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に設定状態が解除されます。

2. 表示タイプの設定に切り替える

Ⓒ ボタンを2回押します

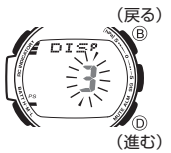


➡現在設定されている表示タイプの番号が点滅します。

3. 表示タイプを選ぶ

Ⓓ またはⒷ ボタンを押します

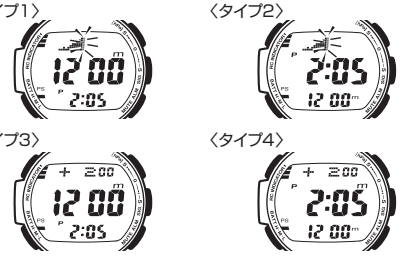
（戻る）



（進む）

➡Ⓓ ボタンを押すごとに、表示タイプの番号が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

〈タイプ1〉 〈タイプ2〉 〈タイプ3〉 〈タイプ4〉



※表示される項目については、「表示について」をご覧ください。

4. 表示タイプの設定後、**Ⓐ ボタンを押します**

➡高度計測モードの表示に戻ります。

■高度計測間隔の設定

1. 高度計測モードのとき、

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

（約2秒間）



➡"OFF"（または高度）が点滅します。
※なお、高度が表示されるまで、約4～5秒かかりますので操作せずにお待ちください。
※設定状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に設定状態が解除されます。

2. 計測間隔の設定に切り替える

Ⓒ ボタンを押します



➡「2'00」または「0'05」が点滅します。

3. 計測間隔を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに、「2'00」と「0'05」が切り替わります。
※2'00：約2分おきに約9～10時間計測する
0'05：約5秒おきに約1時間計測する

4. 計測間隔の設定後、

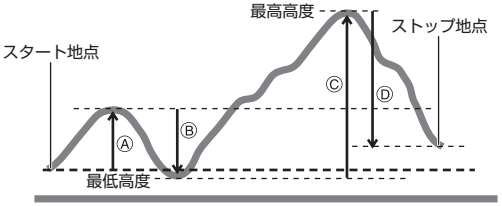
Ⓐ ボタンを押します

➡高度計測モードの表示に戻ります。

■高度メモリー

一定間隔で自動計測したときの月日・時刻と高度を40本、そのときの最高高度・最低高度・積算上昇高度・積算下降高度が記録できます。

※メモリーは、スタート時およびストップ時と、スタート以降は15分ごと（時刻モードの00分、15分、30分、45分）に行なわれます。
※メモリーしたデータは、メモリー計測を行なうたびに自動消去され、新たなデータに書き換えられます。
※メモリー計測は40本をメモリーした後、自動的に停止します。
※メモリー計測は他のモードに切り替えても計測とメモリーを続けます。このときは、“REC ”マークが点滅します。
※最高高度、最低高度、積算上昇高度、積算下降高度の各データには、以下の計測値がメモリーされます。
　計測間隔を2分に設定している場合：最初の3分間は5秒ごと、それ以降は2分ごとの計測値
　計測間隔を5秒に設定している場合：5秒ごとの計測値
※積算上昇高度、積算下降高度は、計測値に± 15m以上の高度差が生じたときにメモリーします。



最　高　高　度：メモリー計測中の最高高度
最　低　高　度：メモリー計測中の最低高度
積算上昇高度：上昇した高度の合計（Ⓐ＋Ⓒ）
積算下降高度：下降した高度の合計（Ⓑ＋Ⓓ）

●メモリー計測のしかた

1. メモリー計測開始

高度計測モードのとき、

Ⓓ ボタンを約2秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、そのときの高度と月日・時刻をメモリーします。
※“REC”が点滅します。



2. メモリー計測終了

Ⓓ ボタンを約2秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、計測終了時の高度と時刻がメモリーされます。



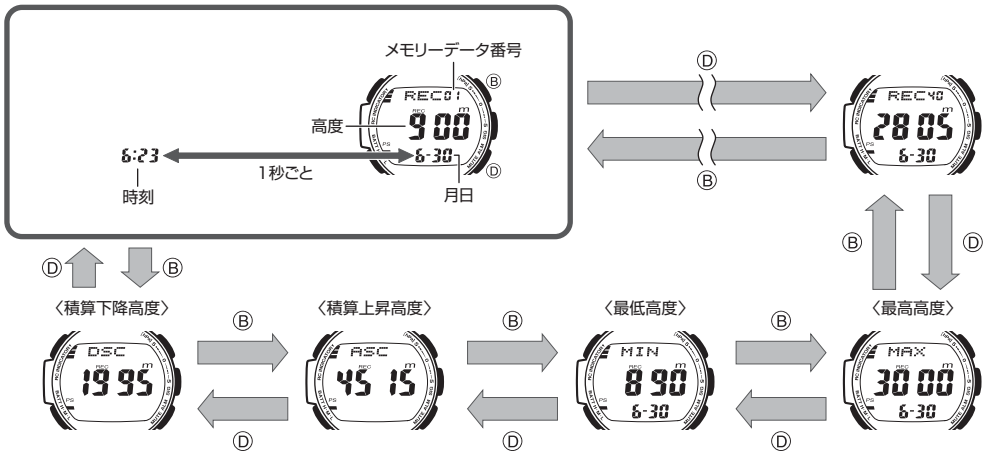
■メモリーしたデータを見る

高度計測モードでメモリーしたデータはリコールモードで見ることができます。

1. 「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸ ボタンを押し、リコールモードにします。

2. Ⓓ または Ⓑ ボタンを押すごとに、以下の順で表示されます。

※Ⓓ または Ⓑ ボタンは押し続けると早送りができます。
※メモリーデータ表示／最高高度表示／最低高度表示の最下段には、「月日」と「時刻」が1秒ごとに交互に表示されます。



■基準高度のセット

正確な高度計または高度基準の標識のあるところで基準高度をセットするときは、以下の手順で行なってください。

本機で表示する高度は、気圧の変化や、大気の温度変化および標高差による温度変化のために多少の誤差が出ることがあります。そのため、登山のときなどは、高度基準の標識と本機の示す高度とを照らし合わせ、以下の操作にしたがいこまめに高度をセットすることをおすすめします。

1. 高度計測モードのとき、

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

➡“OFF”(または高度)が点滅します。
※なお、高度が表示されるまで約4～5秒かかりますので操作せずにお待ちください。
※セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。



2. 基準高度のセットは、

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに5mずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに5mずつ戻ります。
※それぞれ押し続けると早送りします。
※Ⓓ·Ⓑボタンを同時に押すと、“OFF”表示となり、工場出荷時に調整してある基準高度(OFF)に戻ります。
※基準高度は－10,000 m～10,000 mまでセットできます。



3. 基準高度セット後、

Ⓐ ボタンを押します

➡高度計測モードの表示に戻ります。



■温度を優先的に計測するには

温度を優先的に計測するときは、本機を腕からはずすなど、体温の影響を受けないようにして行なってください。

※ただし、このとき表示される高度値は、温度変化の影響を受けるため、腕につけたまま計測した高度値と比べて若干の誤差を生じることがあります。

※実際の気温と時計の温度が同じになるまで約20～30分程度かかります。

●どちらかを優先して計測するときは

高度を優先的に計測するときは、温度を一定または温度変化を少なくしておきます。
例）腕につけたままにしておく、など

温度を優先的に計測するときは、体温の影響を受けないようにします。
例）直射日光に当たらないようにバッグにさげるなど



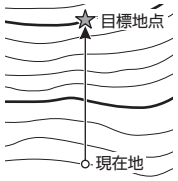
■登山中やトレッキング中の使用例

●高度差計測のしかた

基準地点から現在地点までの高度差を表示します。あらかじめ目標地点までの高度差を調べておくと、あと何メートル登れば良いか（下れば良いか）の目安になります。

1. 本機の表示を「高度差が表示される表示タイプ（3または4）」に設定します（「表示タイプの設定」参照）。

2. 地図上で、等高線などを参考にして、現在地と目標地点の高度差を調べます。



3. 高度計測モードのとき、

Ⓐ ボタンを押します

➡高度計測を行ない、上段に高度差を表示します。



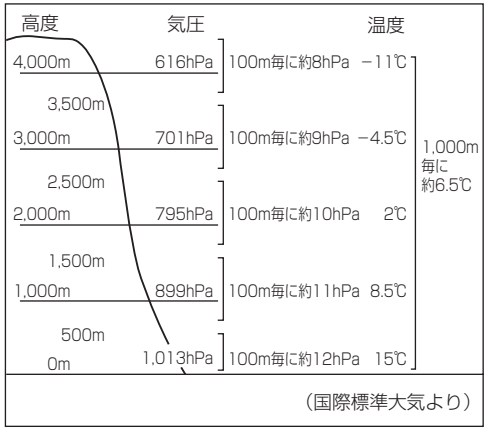
4. 「地図で調べた高度差」と「本機に表示される高度差」を比較しながら、進みます。「地図で調べた高度差」が+80 メートルの場合、「本機に表示される高度差」が+80 メートルになる地点が「高度的な目標地点付近」となります。

■高度ミニ知識

●高度と気圧・気温の関係

一般的に海面より高度が高くなるほど気圧は低くなり、気温は下がります。したがって、気圧がわかれば高度をある程度知ることができます。

本機では国際民間航空機関（ICAO）が定めている国際標準大気（ISA）の高度と気圧の関係を使って高度を推定する方法を採用しており、相対高度を表示します。



●使用例：海抜高度に近い値を得るには

海抜高度に近い値を表示するように使用するときは、海岸や山の標識などの海抜高度のわかるところで、計測の直前に高度を同じ値にセットしてください。

※日によって気圧の変化があるため、なるべく直前にセットしてください。

例）海抜高度 400 mの標識に合わせる

(1) A地点にて海抜高度400mの標識と同じ値に高度をセットします。
(2) A地点からB地点へ行き、高度を計測します。
(3) もし、B地点にも海抜高度標識があれば、もう一度海抜高度をセットします。

※気圧変化などによりB地点での海抜高度と誤差がある場合は、必ずセットし直してください。



★海抜高度に近い値として使うときの注意点

以下の条件下では正しく計測できない場合があります。

- 気象条件により大気圧が変化したとき
- 気温の変化が大きいとき
- 本機に大きな衝撃を与えたとき

●高度の表現方法（相対高度と海抜高度）

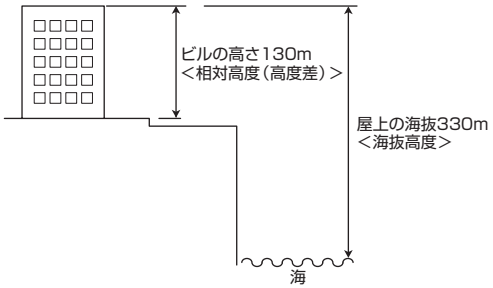
高度を表わす方法には、以下の２通りがあります。

①海抜高度…海面からの絶対的な高さ

②相対高度…ある場所とある場所との高さの差（高度差）

※本機では、相対高度を計測します。

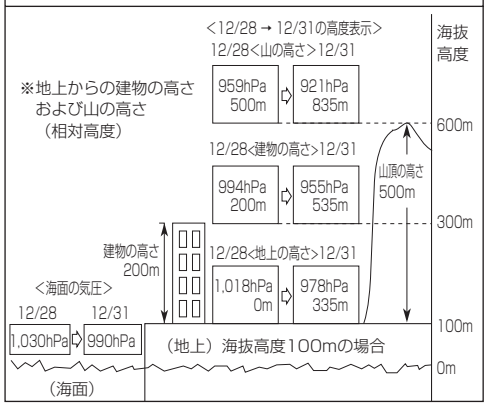
＜海抜高度と相対高度＞



●高度計測上のご注意

●本機は、気圧の変化を高度に換算しますので、同じ場所で高さを計測しても、気圧が変化すれば高度表示が変わります。

例：地上を0mにセットしても，気圧が変わると高度表示が変わる。
12月28日（晴，高気圧1,030hPa）に地上で0mにセットした場合，12月31日（雨，低気圧990hPa）に気圧が下がり，高度表示をみると地上が335m表示となる。



●天候の急激な変化により気圧や気温が大きく変化した場合は、正しく計測できなくなります。
例：山登り中に低気圧が接近し、気圧が下がったときは、実際より高度が高く表示されます。

●急激な温度変化が計測値に影響を及ぼすため、なるべく時計自体に温度変化の影響を受けないように、素肌に直接つけるなどしてご使用ください。

●飛行機内でアナウンスされる高度は、飛行機の回りの大気圧を計測していますので、実際に機内で計測した高度と一致しません。

●本機の高度計測機能は計測周期の仕様上、以下のような短時間で高度が変化するスポーツには使用できませんのでご注意ください。
例：スカイダイビング、ハンググライダー、パラグライダー、ジャイロコプター、グライダーなど

計測異常検出機能

センサーの故障および接触不良により正常な計測が行なえなくなった場合には、自動的に計測を停止し、下記の表示を行ないます。

■“ERR”表示となるときは

気圧・高度・温度を計測中に“ERR”が表示された場合は、再計測を行なってみてください。それでも“ERR”が表示されるようでしたら故障が考えられますのでカシオテクノ修理相談窓口にてチェックを受けてください。

〈気圧計測時〉



〈高度計測時〉



ストップウオッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

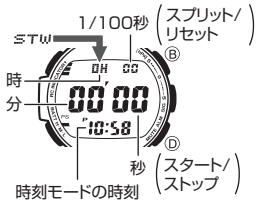
ストップウオッチは1/100秒単位で23時間59分59秒99（24時間計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

ストップウオッチモードのとき、

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



- ●計測中にⒷボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります（SPL表示）。
  ※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
- ●計測ストップ時にⒷボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。

●通常計測

Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓑ リセット

積算計測… ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずにⒹボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓑ スプリット計測 → Ⓑ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓑ リセット

＜スプリット計測中＞



●1・2着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓑ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓓ 2着ゴール → Ⓑ 2着タイム表示 → Ⓑ リセット

ワールドタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界30都市（29タイムゾーン）の時刻を知ることができます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。
※ワールドタイムの「秒」は基本時刻の「秒」に連動しています。
※ホームタイム（基本時刻）を24時間制にしているときは、ワールドタイムも24時間制で表示されます。

■ご注意■

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

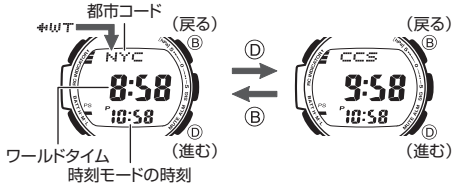
* セットについては「セットのしかた」参照。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき、

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。
※Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。



■サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます



➡Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けるごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。
※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。
※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、“GMT”表示のときはサマータイムの設定はできません。
※ホームタイムで設定している都市をサマータイムONにしたときは、ホームタイム（基本時刻）もサマータイムONになります。

■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
–11	–11		JRS	+2	エルサレム
HNL	–10	ホノルル	JED	+3	ジェッダ
ANC	–9	アンカレジ	THR	+3.5	テヘラン
LAX	–8	ロサンゼルス	DXB	+4	ドバイ
DEN	–7	デンバー	KBL	+4.5	カブール
CHI	–6	シカゴ	KHI	+5	カラチ
NYC	–5	ニューヨーク	DEL	+5.5	デリー
*CCS	–4	カラカス	DAC	+6	ダッカ
RIO	–3	リオデジャネイロ	RGN	+6.5	ヤンゴン
–02	–2		BKK	+7	バンコク
–01	–1		HKG	+8	香港
GMT	+0	<グリニッジ標準時>	SEL	+9	ソウル
LON	+0	ロンドン	TYO	+9	東京
PAR	+1	パリ	ADL	+9.5	アデレード
BER	+1	ベルリン	SYD	+10	シドニー
ATH	+2	アテネ	NOU	+11	ヌーメア
CAI	+2	カイロ	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2008年2月現在作成のものです。
※この表の時差は協定世界時（UTC）を基準としたものです。
※各国の時差やサマータイムは、その国の都合により変更になることがあります。
★2007年12月にCCS（カラカス）の時差が「－4.5」に変更になっていますが、本機では対応しておりません。「時差－4.0の地域」としてご使用ください。

タイマーの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマーは１分単位で24時間までセットできます。セットした時間を経過（タイムアップ）すると５秒間の電子音が鳴ります。

■ タイマーのセット

1. セット状態にする

タイマーモード（リセット状態）のとき、

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます



➡「時」が点滅します。

※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

2. 「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



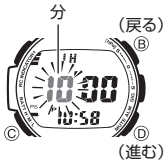
➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ それぞれ押し続けると早送りします。

※「24時間」をセットする場合は、「0H00'00」とセットしてください。

3. 「分」をセットする

Ⓒ ボタンを押します



➡「分」が点滅します。「分」も「時」と同様にⒹまたはⒷボタンでセットします。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

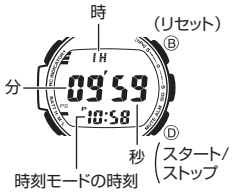
■ タイマーの使い方(減算計測のしかた)

タイマーモードのとき、

Ⓓ ボタンを押します

➡ⒹボタンをⒹ押すごとに、計測がスタート／ストップします。

※１秒単位で計測を行ないます。



●計測ストップ時にⒷ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（リセット）。

●ロスタイムがあるときは、Ⓓ ボタンでストップ後、もう一度Ⓓ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

アラーム・時報の使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸ ボタンを押し、アラームモードにします。

時分を設定できるアラームが５本あり、設定した時刻になると 10 秒間電子音が鳴ります。
また、毎正時（00 分）に時報を鳴らすこともできます。

■ アラーム時刻のセット

1. アラームを選ぶ

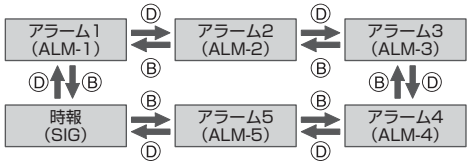
アラームモードのとき、

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡ⒹまたはⒷボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わりますので、設定したいアラームを選びます。

※ アラームモードに切り替えた直後は、前回このモードで最後に表示していたアラームを表示します。



2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます



➡「時」が点滅します。

※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームがONになります。

※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

3. 「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

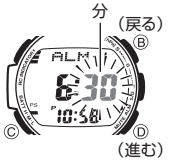
※ それぞれ押し続けると早送りします。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）または24 時間制にご注意ください。

※ 基本時刻を24 時間制にしているときは、アラーム時刻も 24 時間制で表示されます。

4. 「分」をセットする

Ⓒ ボタンを押します



➡「分」が点滅します。「分」も「時」と同様にⒹまたはⒷボタンでセットします。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

■ アラーム・時報のON／OFF設定

準備：アラームモードのとき、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して、鳴らしたいアラームを選びます。また、時報を鳴らしたいときは時報表示を選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡ Ⓐ ボタンを押すごとにアラームまたは時報の ON ／ OFF が切り替わります。

※それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。

〈アラーム1表示〉



〈時報表示〉



■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

■ モニターアラーム

アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等を合わせることです。
※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。
※パワーセービング機能の ON ／ OFF 設定も以下の操作で行ないます。

■ セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを約 2 秒間押し続けます



➡都市コードが点滅します。
※ セット状態で2〜3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

2. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域（都市）を選びます。

*「都市コード一覧」参照。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

3. 「サマータイム設定」にする

Ⓒ ボタンを押します

➡サマータイムの切り替えになります。



4. サマータイムを切り替える

Ⓓ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。

● AT（AUTO） 電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。
● OFF（OFF） サマータイムは OFF になります（通常時間）。
● On（ON） サマータイムは ON になります（夏時間）。 ※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。

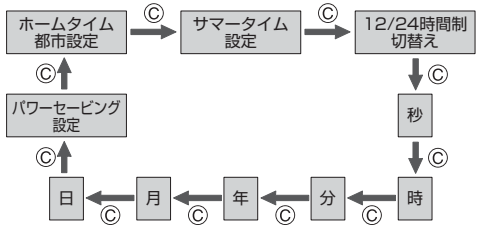
※ホームタイム都市が受信機能対応都市（「電波の受信範囲の目安」参照）以外のときは、「OFF」⇔「On」で表示が切り替わります。

5. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します



➡Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。



6. 点滅箇所のセット

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ または Ⓑ ボタンで点滅箇所をセットします。

a.「12/24 時間制切替え」のとき

Ⓓ ボタンを押すごとに12時間制表示“12H”と24時間制表示“24H”が切り替わります。



b.「秒」セットのとき

Ⓓ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

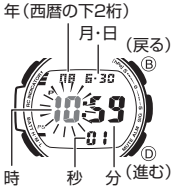
※秒が 00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。（時報は「時報サービス 117 番」が便利です）



c.「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※Ⓓ・Ⓑボタンとも、押し続けると早送りができます。



Ⓒ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前／午後（P）、または 24 時間制にご注意ください。
※「年」は2000年～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。
※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

d.「パワーセービング設定」のとき

Ⓓ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のOn（ON）／OFF が切り替わります。

※パワーセービング機能をONにすると、パワーセービングマークが点灯します。



7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。